

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472700556	事業の開始年月日	平成17年12月1日	
		指定年月日	平成27年11月1日	
法人名	株式会社 川崎中央プランナー			
事業所名	グループホーム三浦こもれび			
所在地	(〒238-01115) 神奈川県三浦市初音町高円坊1452			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果 市町村受理日	平成28年3月4日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然あふれる豊かな環境の中、家庭菜園で野菜を作り、特産物を始め季節感のある食材を多く取り入れた食事提供とともに、家庭的な環境を第一に、その人らしさを尊重し、「できること」の維持、または共に探しながら自立した生活を送って頂いている。</li> <li>・ご本人様のペースを大切に、ゆっくりと穏やかに過ごして頂いている。</li> </ul>
---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成28年2月4日	評価機関 評価決定日	平成28年3月1日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b></p> <p>◇法人代表者と職員間の意思疎通の緊密化 代表者が月数回来所して、管理者や職員から個別に要望や意見を聞き、直ちに運営に反映するとともに、職員間の日常業務や意見に相違が生じないよう心がけている。</p> <p>◇気配りのある利用者本位の介護サービス 理念に「一人ひとりの生活」「心の優しさと思いやり」「地域とのつながり」を掲げ、開所以来の経験豊かな職員を中心に、気配りのある利用者本位の介護に取り組み、住み慣れた地域での生活を支援している。</p> <p>◇医療体制の充実による家族と利用者への安心感 月2回の協力医の往診、週1回の歯科医と看護師の健康管理は、家族と利用者に安心感を与えている。</p> <p><b>【事業所が工夫している点】</b></p> <p>◇月間の「事業所便り」による家族への情報の提供 毎月の「こもれび通信に」は、利用者の健康状態や生活状況など居室担当者の意見が多く取り入れており、利用者の家族に喜ばれている。</p> <p>◇事業所の菜園の積極的な活用 広い菜園で各種の野菜を作り、利用者が水やりや収穫を手伝うとともに、収穫した野菜を食材として活用し、季節感のある食事を楽しんでいる。</p>
---

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム三浦こもれび
ユニット名	-

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念について代表者始め管理者、全職員が再度見つめ合い、感謝の気持ちを忘れず質の高いケアを提供できるよう、研修や会議を行っている。	・[優しさ・思いやり・感謝の気持と地域との交流の輪]を理念とし、職員は常に理念を確認しあい実践に努めている。 ・管理者が率先して、理念を介護の現場で実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・回覧板を回し挨拶を交わしたり、近所の農園に苺狩りに行くなど地域交流ができるよう支援している。	・自治会に加入して、防災訓練・お祭りや相撲大会を見物し、地域との交流を心掛けている。 ・3月には、近隣の小学1・2年生と保護者との交流を企画している。 ・地域のボランティアのチェロ演奏を、利用者は楽しんでいる。	・事業所内のイベントに町内の人達の参加を呼びかけて、地域の方との交流が活発化することが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・利用者の家族、親戚等からの相談を多く受けるようになり、出来る限りの支援策を提案している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・ご利用者の状況や、活動報告、運営報告などを行っている。ご家族様や関係者様の貴重な意見を聞ける場であり、今後のサービス向上等、課題発見の場にもなっている。	・自治会の役員・市の職員・民生委員・家族と管理者をメンバーとし、年4回開催している。 ・事業所の状況報告や、管理者交代による今後の方針を説明後、参加者から運営面での意見をいただいている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・書類提出時は、直接出向き、相談等も積極的に行っている。傾聴ボランティア育成講座実習生の受け入れを行っている。	・市の福祉課に出向き、情報を得たり、事業所の状況を報告して、行政との連携を密にしている。 ・市のグループホームの連絡会に出席し、情報を交換し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関の施錠は、ご利用者様、ご家族様の同意のもと簡易的に行っているが、いつでも出入りできるようにしている。ご利用者様のご様子に合わせ、開錠する時間を増やす等行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束防止マニュアルをベースに、新入職員への研修を実施している。</li> <li>・言葉かけや態度も職員間で常に注意しあっている。</li> <li>・職員間の見守りで、なるべく施錠はしないようにしている。</li> </ul>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表始め、管理者、職員で虐待及び身体拘束についての社内研修を実施し、共通理解を深めた。職員同士、話し合い防止に努めている。</li> </ul>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族様の必要に応じて活用できるように支援している。</li> </ul>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にお電話や文書にて説明させて頂いてから、来館時にも再度説明を行い不安や、不明点がないかお伺いし、理解を得るようにしている。</li> </ul>		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話やすい雰囲気作りを心掛け、意見や要望、問題点を速やかに対応できるようにしている。職員誰に聞いても安心して頂けるよう、一人一人が心がけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者家族の来訪時には、代表や管理者との話し合いの場を設け、意見や要望を聞いている。</li> <li>・家族の意見はカンファレンスで取り上げて全員で話し合い、介護に反映している。</li> <li>・結果は必ず家族にフィードバックしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者始め全職員出席での全体会議の開催や、毎朝の申し送りを行い、意見や要望等を話し合う機会を設けている。	・管理者は職員と月1回の会議でお互いに話し合える関係を築いて意見や要望を聞いている。 ・代表が、週1・2回来所して職員と個別に面談するとともに、職員も代表に直接意見を言える状況を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者の定期訪問(週1)や個人面談(月1~2)を行い、直接話し合う場を設けている。職場環境の把握や個々の要望、意見を聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修には、管理者と職員など複数で行くようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・グループホーム連絡会主催の研修や、鎌倉保健福祉事務所三崎センター主催の研修に参加し、質の高いケア、サービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご本人、ご家族の思いを受け止め、安心していただける様お声を掛け、ご希望に添うケアを心がけ関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の要望や不安に思う事柄を理解し、事業所として対応できる事を説明し、ご理解して頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人、ご家族の状態や状況を把握、確認し可能な限り様々な角度から見極め対応するよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人の「できること」を維持または共に探しながら、洗濯物たたみやシーツ交換などを共に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・入居者ご本人の状態変化や日々のご様子を詳しく、都度ご報告し、ご家族の要望等をお伺いし、その上で職員の思いもお話しさせて頂き、支え合う関係を大事にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご友人や馴染みの関係者が訪問しやすいような環境作りを心がけている。	・利用者の友人や家族の来訪時には、お茶をだし居室で歓談してもらっている。 ・外部との手紙や電話のやり取りも、継続するよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・日常生活の中で関わりを多く持ち、利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・電話での相談や、ハガキでの挨拶を行い、必要に応じて訪問を行ったりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・ご家族の情報だけでなく、縁者、多方面の各関係者からの情報も得るようにし、ご本人の意向に沿うようにしている。	・日頃利用者をよく観察し、周りの方からの意見を総合的に判断して、思いや意向を把握するように努めている。 ・把握困難な方は、家族の情報やベテラン職員が本人の表情やしぐさから、意向をくみとっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前に利用されていた、訪問ヘルパーやケアマネージャー、ソーシャルワーカーからの情報を伝えてもらえるような関係作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの生活のリズムに合わせ、無理のない起床、臥床に努め、穏やかに過ごしていただいている。生活リズムの変化を早期に把握し、小さな変化も見逃さないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人や家族には訪問時や日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。	・管理者・計画作成者・居室担当者は家族の意見を聞き、全職員で話し合い現状に即した介護計画を作成している。 ・計画は日頃の生活を観察し、6か月ごとに、また、変化のあるときは随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人ファイルに日常生活の様子や、本人の言葉、排泄状況、食事摂取量、身体状況を記録し、保存している。状況の把握に努め報告し合い情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・できる限り柔軟な対応に心掛けている。医療面での強化等に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・事業所として可能な限りな対応を行い、穏やかな生活が保たれるよう、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携が確立されていて、月2回の往診と適時の往診があり、主治医との連携が出来ており、適切な医療が受けられるよう支援している。	・緊急時に即応してくれる診療所、専門病院、総合病院との医療連携が確立しており、利用者全員が協力医を受診している。内科は月2回・歯科は週1回（水曜日）・訪問看護は週1回の来訪がある。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・医療連携による、1週間に2時間の訪問看護があり、利用者の健康維持、相談等適切な看護を行っていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・長期入院によるダメージを防ぐため、入院先の医師、看護師、家族の意向をもとに、早期退院に向けかかりつけ医との連携を深めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合の対応、終末期のあり方について、利用者と家族の意向を踏まえ、事業所、かかりつけ医とその時の状態に合わせた話し合いを行っている。	・文書化された看取りの指針を、入居時家族に説明して同意を得ている。重度化した際は、医師・看護師・家族・管理者と職員が話し合い、可能な範囲で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・地域で行う救命講習会に参加するとともに、訪問看護師に初期対応処置を聞くようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・訓練を行い、利用者とともにシュミレーションし、災害時は近隣の住民に協力をお願いするなどしている。次回3月中旬に訓練予定。	・緊急連絡表を事務室に掲示している。3月に消防署と自治会・住民が参加して、夜間を想定した訓練を行なう予定である。 ・備蓄は3日分の水・食料と防災用品・コンロ・衛生用品がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員の意識向上を図り、お声かけや対応が配慮したものであるように徹底しているとともに、ご本人様の意思、意見を大切にしている。	・職員は入職時に守秘義務に関する誓約書を提出している。 ・日頃よりプライバシーを損ねることのないように、丁寧な言葉かけに努めている。 ・個人情報を含む書類は、施錠のかかる書庫に保管している	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・居室担当を決めており、相談や希望を話せるようにしている。居室担当に限らず、職員一人ひとりが利用者の思いや希望、自己決定支援ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりの時間を大切にし、ご希望や、その時のお気持ちに添った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・適時、訪問美容師によるカットを行い、おしゃれを楽しんでいる。清潔感を大切にし、その人らしさの出る服装や、ご家族様の持参された着衣を着て頂けるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事作りや、配膳、下膳を手伝っていただいたり、その人のペースを大事に食事を召し上がっている。	・調理専門の職員が、献立や食材の買い物を行い調理をしている。 ・利用者からのアンケートで好みを把握して、提供に努めている。 ・誕生会には、祝い膳とケーキで祝っている。 ・利用者は職員と共に、テーブルや食器拭き下膳などを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・主治医、看護師と相談を行い、利用者に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・訪問歯科医師による口腔ケアを行ってもらい、ご自分で出来ない部分のみ必職員による介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・自尊心に配慮しながら尿意のない利用者でも、無理のない範囲でトイレに座っていただくなどの誘導介助をしている。	・記録表から一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を支援している。 ・利用者の尿意を表す素振りから察知して声かけし、排泄の自立支援に努めている。 ・病院退院時おむつの方が、入居後リハビリパンツへ改善された。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・乳製品、野菜を多く取り入れ、臥床時間を短くし、体操の時間を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・週2回の入浴を行い、状態や本人の希望に沿うよう、臨機応変に対応している。	・入浴は週2回で、シャワー浴や足浴を望む方にも対応している。 ・現在入浴を拒む方はいないが、声掛けの職員や、時間を変えるよう工夫している。 ・季節を感じてもらおうよう、ゆず湯も提供している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・利用者個々の睡眠パターンを把握し、その時の状態、その人にあった支援を行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・変化や変更があった場合は、主治医、看護師、管理者等から全職員に情報が入るようにし申し送りや連絡ノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・季節の行事、誕生会、ドライブ、個人の好物をみんなで作ったり、食事の後片付け、洗濯、物干し等個人の体調に配慮しながら支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・家族と連絡を取り合い、お墓参りや外食に出かけたり、地域の農園でミカン狩りや芋掘りなどが出来るように支援している。	・天気の良い日は、車いすの方も事業所の周りを散歩している。 ・職員と一緒にコンビニへ買い物に出掛けたり、ベランダで日光浴をする方もいる。 ・久里浜のコスモス見学、河津桜、三浦海岸へドライブの遠出も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・外食に行った時や買い物に出かけたときに、事業所立替で現金を渡し、買い物をしていただいたりしている。また、小銭を常に所持している方には、家族了承のうえ、所持していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご本人様のご希望により対応している。以前は絵はがきを作り郵送したり、事業所の電話機を利用しやり取りをされている事もあった。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節に合わせて換気調節、空調調節、照明調節を適時行い、外の景色が見えるよう配慮し、共用部分はいつでも自由に利用できるようにし、居心地の良い空間作りに努めている。	・居間は清潔に保たれ、温・湿度にも配慮している。リビングの一角に和室の掘ごたつがあり、廊下には明り採りの天窗がある。 ・正月の門松やひな祭り、七夕祭り、クリスマスツリーなどを飾り季節感を演出している。畑にはカリフラワー、絹さやなど野菜を植え、食卓に採り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用部分に和室があり、掘りごたつを囲み、気の合った者同士が思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で慣れ親しんだ使いやすい家具を持参していただき、その方が落ち着いて安心して暮らせるように配慮している。	・居室には、エアコンやクローゼット、照明、ベットが備え付けられている。 ・利用者は使い慣れた整理タンス、椅子、テレビや仏壇、家族の写真を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下、洗面所、トイレ等の共用部分には手摺りを取り付けてあり、個人の居室入口には大きなネームプレートと、本人がわかりやすい目印になる飾りつけをしている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム三浦こもれび

作成日 平成28年3月2日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	ボランティア活動の受け入れや、地域との交流が少ない。	地域住人との交流を増やして、いつまでも住み慣れた地域での生活が送れるように支援する。	3月13日、地域の小学生、幼児による音楽会ボランティアを企画している。その後も、事業所内の企画にお誘いし定期的な交流を図る。チェロボランティア等を継続する。	3～6か月
2					
3					
4					
5					